

【学力向上フロンティア用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大刀洗町立本郷小学校								教員数
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	15
学級数	2	1	1	1	2	2	0	9	
児童数	50	39	39	36	42	51	0	257	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶ楽しさを味わう子どもを育てる社会科・算数科学習指導  
～評価を生かした問題解決活動を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

下記の図1は平成14年度2月上旬に実施した「学力診断検査(CRT観点別)」の結果である。これらの結果から、次のような子どもの実態が明らかになった。

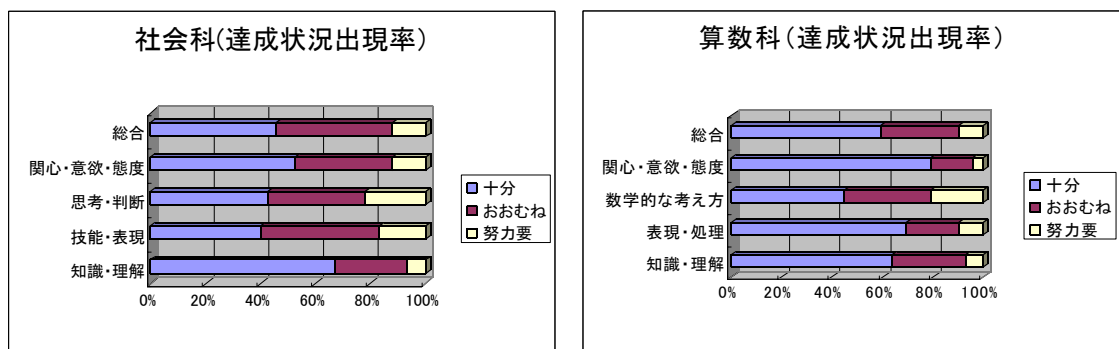


図1 平成14年度2月上旬に実施した「学力診断検査」の結果

学習に対する「関心・意欲・態度」や「知識・理解」は、比較的高い。「思考・判断」「数学的な考え方」など思考力が、まだ十分身に付いていない。そこで、1年生～6年生で算数、3年生～6年生で社会を研究することにした。

(2) 年次ごとの計画

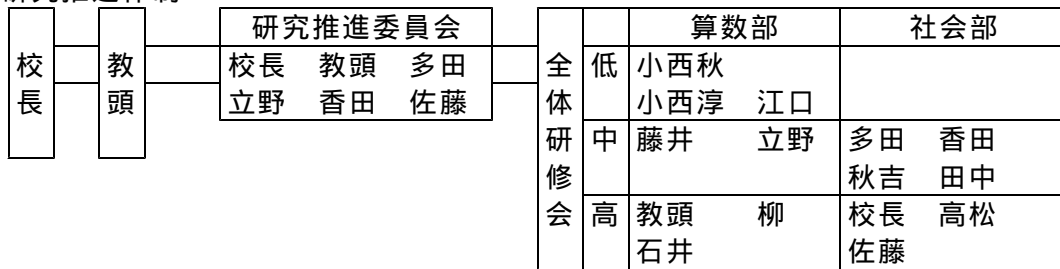
平成14年度	<p>テーマ 学ぶ楽しさを味わう子どもを育てる社会科・算数科学習指導 ～子どもが自分の伸びを実感する課題解決活動を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説) 社会科・算数科において、子どもが自分の伸びを実感する課題解決活動を位置づければ、学ぶ楽しさを味わう子どもが育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが自分の伸びを実感する教材開発の工夫</li> <li>子どもが自分の伸びを実感する価値ある素材の教材化</li> <li>子どもが自分の伸びを実感する課題解決活動を構想し、指導方法・指導体制の工夫・改善</li> </ul>
	<p>テーマ 学ぶ楽しさを味わう子どもを育てる社会科・算数科学習指導 ～評価を生かした問題解決活動を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説) 社会科・算数科の学習指導過程において、3つの評価活動を設定し、それらの評価を生かした問題解決活動を位置づければ、学ぶ楽しさを味わう子どもが育つであろう。</p>

平成15	<p>テーマ 学ぶ楽しさを味わう子どもを育てる社会科・算数科学習指導 ～評価を生かした問題解決活動を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説) 社会科・算数科の学習指導過程において、3つの評価活動を設定し、それらの評価を生かした問題解決活動を位置づければ、学ぶ楽しさを味わう子どもが育つであろう。</p>
------	---

年度	<p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「評価を生かした問題解決活動」モデルの設定と構築</li> <li>・教材の開発</li> <li>・子ども自ら問題解決活動を展開するような自己評価の工夫</li> </ul> <p>昨年度の研究で評価の時期・内容・生かし方が課題に残った。そこで、本年度はテーマをより焦点化したため昨年度の中間報告書の内容から変更した。</p>
----	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>学ぶ楽しさを味わう子どもを育てる社会科・算数科学習指導 ～評価を生かした問題解決活動を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>社会科・算数科の学習指導過程において、3つの評価活動を設定し、それらの評価を生かした問題解決活動を位置づければ、学ぶ楽しさを味わう子どもが育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「評価を生かした問題解決活動」モデルの設定と構築</li> <li>・教材の開発</li> <li>・子ども自ら問題解決活動を展開するような自己評価の工夫</li> </ul>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

社会科では思考・判断、算数科では、数学的な考え方と表現・処理に重点を置いて少人数授業やTT等の指導体制をとったことで、一人一人の課題や伸びを教師が容易に把握することができた。また、子どもも単元でねらう基礎・基本の学力が以前よりも身に付いているという自己成長意識をもつことができた。

習熟の程度や興味・関心に合ったコースでの問題設定、追求、解決という一連の問題解決活動を行ったことで、主体的に学ぼうとする学習意欲を喚起するとともに、次への学習意欲を高揚させることにつながった。

社会科では、地域性のある人物や事象、算数科では生活経験とかかわりが深い体験性を特に焦点化し、更に教科の本質性、発展性、活動性・多様性を視点にして教材開発したことは、教材としての価値があり、子どもも学ぶ楽しさを感じながら追求意欲を継続することができた。

評価1～3までを同じ評価表を使って自己評価したことで、視覚的にも自分の伸びを把握することができ伸びを実感することができた。特に算数科では単元で押さえたい4つの評価規準に沿って評価項目を分類していたことで、更に付けた力や付いた力が把握でき、自己成長意識をもつことができた。

コースに分かれる前の評価によって、単元で押さえる基礎・基本がどの程度身に付いたかを振り返ることができ、課題意識をもってコースを選択することができた。

毎時間の自己評価を位置づけたことで、教師も指導方法を評価することができ、次にどんな手だてをとればいいのかを考える上で参考にすることができた。

## 2. 今後の課題

子どもの実態や興味・関心に応じて、単元で身に付けさせる基礎・基本が確実に定着する問題解決活動を構築するためには、どの段階で少人数やT T等の指導体制を組み入れるか年間計画で重点化し見直す必要がある。

算数科では、担任一人で補充的・発展的な学習を指導する場合がある。日ごろから担任だけで進めることが可能な主体的な学習活動の積み上げを全学年で取り組む必要がある。

単元全体では、社会科では、思考・判断、算数科では数学的な考え方と表現・処理に重点をおいて問題解決活動を行ってきたが、毎時間や各段階でも、子どもがより主体的に学んでいく問題解決活動の在り方を究明する必要がある。

学力を定着させるために、学習指導要領の各学年の目標に照らし合わせ4観点をバランスよく育てていく年間計画の作成をする必要がある。

社会科では、思考・判断面の他の観点における教材の開発、算数科では基礎・基本が確実に身に付いて子どもの知的好奇心が揺さぶられる更なる補充教材の開発が必要である。

毎時間の評価項目は、評価規準と整合させた上で、もっと子どもの活動の姿まで具現化したものにする必要がある。また、基礎・基本の定着を短時間で正確に自己評価できる評価方法の更なる研究が必要である。

### 学力等把握のための学校としての取組

#### 実施目的

学力等の実態を客観的に把握し、個々の児童の学習指導への活用はもとより学校経営・教育課程の編成・指導計画の作成・指導方法の改善等に役立てる資料の一つとしていくために実施する。

#### 実施調査と時期・学年

知能検査：6月11日～13日 1単位時間・・・2年・4年・6年

学力検査：2月2日～10日 2～3単位時間・・・1年～6年（国語・算数）  
3年～6年（社会）

県学力実態検査：2月6日 4単位時間・・・6年

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・公開授業 平成15年7月1日
- ・実践交流会 平成15年11月28日
- ・フロンティアティーチャーとして本校の研究成果普及のために、各フロンティア校での公開授業や実践交流会に参加し本校の取組について説明した。また、本校ホームページで実践事例等を公開する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |            |            |      |    |
|----------------------|------------|------------|------|----|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 |      |    |
| 【学校規模】               | 6学級以下      | 7～12学級     |      |    |
|                      | 13～18学級    | 19～24学級    |      |    |
|                      | 25学級以上     |            |      |    |
| 【指導体制】               | 少人数指導      | T・Tによる指導   |      |    |
|                      | 一部教科担任制    | その他        |      |    |
| 【研究教科】               | 国語         | 社会         | 算数   | 理科 |
|                      | 生活         | 音楽         | 図画工作 | 家庭 |
|                      | 体育         | その他        |      |    |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有          | 無          |      |    |